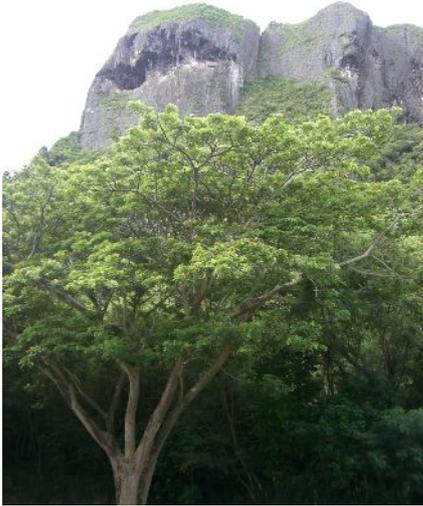


スーサイド・クリフと バンザイクリフ



スーサイド・クリフ

サイパン島の北端には、海拔 249 メートルのマッピー山がある。山頂北側には、高さ 170 メートルの切り立った断崖絶壁がある。眼下に緑のジャングルが見下ろせ、未完の日本軍飛行場滑走路は、おもちゃのようにはしか見えない。

今から 65 年前、サイパン島の南方面から追いつけてくる米軍から逃れようと、日本人住民は北へ北へと逃げた。そのときタポチョ山から山沿いに逃げ場を探して進んだ人びとが行きついた終点が、この切り立った崖だったのだ。残された逃げ道はなかった。

彼らは、米軍に投降することより、崖から飛び降りることを選んだ。中には、自分の子供を突き落してから飛び降りる親もいた。米軍は、次々と飛び降りる人々の姿を見て「飛び降りるな」という意図を込めて、沖に浮かぶ艦隊から崖の中腹に向けロケット砲などを威嚇砲撃した。その「威嚇行為」は民間人の自決を助長させたのではないかと考えられる。米軍のロケット砲弾の跡は、今でも岩壁に生々しく残っている。一方で、日本軍がサイパンの住民に、敵の捕虜となるより名誉の死を選べ、と命じたプレッシャーが彼らを自決に追いやった、とも言われる。

この悲劇から、戦後この崖には「スーサイド・クリフ」すなわち『自決の崖』という名がつけられた。マッピー山のふもとは、断崖絶壁から飛び降りた人々の死体で埋め尽

くされた。あまりの多さに、処理しきれなくなった米軍は、繁殖力のある「タガンタガン」という植物の種を空中散布し、死体を覆い隠してしまった。今日、崖の下は他ガンタガンのジャングルと化しているが、ここには当時自決した日本人の遺骨が眠っている。

戦後、崖の上には多くの慰霊碑が立てられた。その中で注目に値するのが、菩薩と十字架を一体にした「平和慰霊像」だ。国籍を問わず、戦争で亡くなった人の霊をなぐさめる趣旨から、1972年 日本と北マリアナ連邦の有志によって建てられた。

バンザイ・クリフ

ここはかつてサバネタ岬・ラグア・カタン岬といわれたところで、海をのぞむ海拔80メートルの断崖絶壁。その高さはビル3階分に匹敵する。ここから真正面の方向に日本がある。サイパン戦が米軍の勝利で終決するまでに、それまで島に暮らしていた日本人民間人1000人以上が、米軍に追い詰められ行き場をなくして、この崖から身を投げた。戦後、犠牲者に向けた多くの慰霊碑が立ち並び、サイパン有数の観光地となっている。

1944年6月 サイパン南西部のチャラン・カノアに上陸した米軍は、北部へと急速な進行を行なった。日本人や、チャモロ人などの民間人は、米軍から逃れようと島の北部に避難する際、二手に分かれたが、どちらも悲劇的終末を迎える。つまり、海沿いの道を選んだ人びとは、この海に面した断崖絶壁に行き着き、そして島中央の山間部に沿って標高249メートルのマッピ山へと逃れた人びとも、切り立った断壁に行き着き、どちらも逃げ場を失うのだ。

海の断崖絶壁に追い詰められた日本人達は、米軍が投降勧告をしても、捕虜になることを選ばず、崖から海へと身を投げ自決した。崖下は多くの死体が折り重なり、血の海となった。崖から身を投じる際、人々が「天皇陛下万歳」と叫びながら投身自殺をした、ということで 戦後 「バンザイ・クリフ」という名前がついた